

WHO ファクトシート

筋骨格系疾患

Musculoskeletal conditions

2018年2月

重要な事実

- ・筋骨格系疾患は、世界で能力障害への2番目に大きな要因であり、腰痛が世界の単独の能力障害では第1位の原因である。
- ・筋骨格系疾患と傷害は、高齢者だけの病状ではなく、各年齢層を通じて広く存在する。3人に1人から5人に1人の割合の人々が、痛みや能力障害などの筋骨格系の疾患を患っている。
- ・筋骨格系疾患は、機動性や器用さを著しく制限し、早期の退職につながり、貯蓄した富を減少させ、社会的役割に参画する能力を減らす。
- ・持続的な痛みの症状のほとんどは、筋骨格系疾患によって説明されている。
- ・多疾患罹患状態の中でも高い割合で、筋骨格系疾患は多疾患罹患を訴える人の3分の1から半分に見られ、またうつ病との関係も非常に一般的である。

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Musculoskeletal conditions

ファクトシート原文は [こちら](#)